



旅が与える魔法〜かわいい子には旅をさせよ！〜

—香川大学医学部の鈴木裕美先生です。こんにちは。ご無沙汰しています。

こんにちは！お元気そうで。

—こんにちは。ご無沙汰しています。育休明けで、寝不足と戦いながら悪戦苦闘中ですが、私も子育て頑張っております。

はい、よく頑張ってますよ！

—今日の番組のテーマが、「修学旅行」ということで、先生に子どもの成長に旅が与える影響や効果についてお話を伺っておきたいなと思います。

まず、「修学旅行」と聞いて、ある患者さんのことを思い出すんですね。個人情報なので詳しくは言えませんが、長期入院されていて、医学的には修学旅行に行くのは考えられない状態の子だったんですね。けれど、その子が「どうしても修学旅行に行きたい」と言ってますね。みんなに反対されたけど、旅行に行くための準備をし始めましたね。退院して行っちゃったんですね。そしたらお友達の協力もあって車いすに乗りながらですが、二泊三日無事に過ごせたんです。

—高校の修学旅行ですか？

中学でした。その後、再入院せずに学校にも復帰したんですが、その奇跡っぷりは、アルプスの少女ハイジのクラブが歩いたくらいの衝撃でしたね。そしてその後、高校、大学と進学し、社会人となって一人暮らしする様子は、クラブがフルマラソンするくらいの奇跡でした。修学旅行って、私たち大人からすればただの旅行かもしれないませんが、子どもにとっては驚くべき奇跡を起こすような特別なものなんです。その子だけじゃなくて、修学旅行をきっかけに学校に行き始める子もいます。何が何でも行きたいという強い意志が、魔法になるんですね。

—実際に鈴木先生は目の前でその瞬間を見たわけですね。

そうですね。だから、医療関係者や学校の先生が「この子、無理だろう」と判断することがあるかもしれないけど、子どもは奇跡を起こすんだな、無理かどうかは子ども自身が決めるんだなと感慨深く思いました。

RNC 西日本放送ラジオ番組

## CHIT CHAT RADIO 子育てCHAT ROOM

2022年10月18日15時14分～15時36分

―修学旅行、まあ旅つていうものが子どもを元気づけたり、それどころか人生を変えるようなエネルギーを発することがあるんですね。

そうですね。修学旅行にこんな力があつたなんて、本当に感激しましたし驚きました。他に旅の効果として一般的なものとしては、子どもがしっかりするようになるということですね。

子育てというのは、家庭が自動車教習所のようなもので、親が子どもの車の助手席に乗って手取り足取り「ルールを守ること」と「自分のことを自分ですること」を教えます。そして、公道という学校や社会に一人で出してあげるんですね。そして親はガソリンスタンドで、頑張つて疲れた子どもにエネルギーチャージをするために待っている、必要な時に手助けをする、遠くから見守っている、そういうイメージなわけです。ですが、親は子どもがすごく心配なので、なかなか助手席から降りません。助手席に座りながら子どものハンドルに手をかけて、進む方向を決めたり、勝手にブレーキかけたり、車の窓を拭いたり、細々と手を出しちやいます。なかなか子どもを一人で運転させられないんですね。でも、必ず助手席から降りなければ自立できない。旅は強制的に親を助手席から降ろす、子離れするいい機会になります。また、子どもは自分のことは自分である、困ったときは自分で対処することを学ぶいい機会ですね。

―この場合、家族旅行ということではなくて？

はい。旅にもいろいろありますが、例えば小中学生対象のサマーキャンプなどがありますね。私の子どももお寺で一泊二日する夏のお泊り会に参加しました。自然体験を目的としたキャンプでは親抜きで、テント張りや火起こし、炊事などできますね。ネットから離れてたくさん体を動かすリアルな体験を楽しむというのがとてもいいので、おススメです。大人のスタッフがいるので安全ですし。

―確かに夏休みには子どもが参加するキャンプとか企画されていますね。

はい。あと家族旅行でも、行く前に準備をしますね。どこに行くか、どのように行くか計画を立てたり、何を食べるか考えたり。子どもに旅行計画に参加させるのは、旅の醍醐味だと思いますし、成長のきっかけになると思います。子どもが決めたことはできるだけ実現させて、行程で難しいことがあつて失敗するのも経験ですよ。チケットを取るのを失敗したり、計画を入れすぎて全部回れなかったり。まあそういう経験をするのも大事なかなと思いますね。

―親としては、口出ししたくなったりするけど、そこはべつと堪えないといけない。

ぐつとこらえてね。子どもに任せることが、子離れすることにつながります。

—大体いつぐらいから大人なしで友達とか一人旅とかさせるといいのでしょうか？

私は小学一年生から一人で乗り物に乗せてましたね。旅行と言うと、どこかの観光地に行くイメージですが、例えばおばあちゃん家に行くのに一人でバスや電車に乗るのも子どもにとって大きな旅だと思っんですよね。

—そうですね、子どもにとっては。小学一年生で電車というのは、どれぐらいの距離ですか？

駅にしたら数駅ですね。駅の改札口まで送って行って、行き先が一番のプラットホームだから、必ずそちらの階段から降りるようになるとか言ってる。間違えると反対方向に行っちゃいますからね。「三つ目の町田駅だよ」って言うと、ものすごい緊張して乗るわけですね。その当時、子どもに携帯電話を持たせてないので、降りられないと連絡つかなくて困るんですね。その時は次の駅で降りて、車掌さんに話して一駅分戻ってくるようにとコミュニケーションしたりして。困ったときにどうすればいいかはよく話しておきますね。そして、駅でおばあちゃんが待っている。まあ、日本語通じますし、日本は安全なところだから大丈夫かなと。

—うわあ、それを小学一年生から！私、いまだに電車の乗り間違えますから。(笑) 乗り過ぎしたり、逆に行ったり(笑)

—その感覚を小学生の頃からやるのが、子どもの成長につながるんですね。で、どうですか？やっぱり一人で電車に乗る前と後では子どもは変わりましたか？

子どもは自分一人で行けたっていう成功体験で、自信がきますよね。なんでもやってみようとするようになりました。それから小学三年からは飛行機に乗るようになりました。

—飛行機ですか？？

国際線とか。

—国際線？？

飛行機は、子どもにはアテンドの人がつくので、とても安心です。予約の時にお願いしておく、チェックインカウンターまでキャビンアテンダントが来てくれます。

—そんなのがあるんですか？？

—私もその場面に遭遇したことがあります。私も子どもを飛行機に乗せたいと思ってたんですが、コロナでチャレンジできていなくて。子どもがCAさんに連れて行ってもらっているシーンは何度も空港で見かけました。

—そうなんですか！知らなかったです。

—ちゃんと優しいお姉さんが手を繋いで連れて行ってくれて、飛行機のおもちゃくれたりとかしますよね。

—一人で子どもを飛行機に乗せるのは勇気いりですけど、そういうサポートがあるんですね。

そうですね。中学生くらいになるとそういうサービスはないので、一人でなんとかしないといけませんよね。国際線なら英語が少しはできないといけないので、困ったらこの英語ねっていうのを練習させて乗せてました。

—国際線はいまだに緊張しますよ！（笑）飛行機は電車と違って、乗り換えとか、降り忘れがないので、そういう意味では電車よりハードル低いんですね。（笑）

直行だったらね。トランジット（乗り換え）があるのとちょっと難しいかな。子どもが中学二年生の時に直行だと飛行機代があまりに高いので、韓国でトランジットありのチケットを買ったことがありますね。中学生だからまだ英語がうまくないんだけど、いくつかのコミュニケーションを練習させました。なんだったら「エクスキューズミー」って言って、チケット見せて連れて行ってもらうしかないじゃないですか。あと「サンキュー」って言えばいいから頑張らせて送りだしたら、ちゃんと着きました。（笑）

—素晴らしいなあ。韓国のトランジットでだいぶ時間ありますよね。その時間も自分でつぶして、そこからどこに行かれたんですか？

—ニュージーランドですね。

—うわあ、それは結構な時間ですね。

—それは完全に一人だったんですか？

そうですね。ツアーとかではなく、ニュージーランドの二週間語学学校プログラムでホストファ

ミラーに滞在するプランをネットで予約して、チケットを別途購入したわけですね。こうするとだいぶ安く行けるんですよ。

—でも中学生の時にもう国際線に乗れるようにするために、まずは小学生の時に数駅分バスや電車に乗るところから始めるわけですね。

そう、そこですよね。

—子どもその過程の中でいろいろな気づきや発見、成長があるんでしょうね。

この間、リースクールの遠足をしたんですね。学園通り駅から片原町駅まで電車に乗ったんです。そしたら子ども達が切符を買ったことがないって言うんですね。香川県は車移動が多いから電車に乗らないんですね。まずは行き先までの切符の値段を調べて、子ども料金があることを確認して、機械にお金入れてボタンを押すというのをやってみました。一つ一つが初めてで新鮮なようで、自分で切符が買えたら嬉しそうでした。

—まあ、旅っていうのは非日常を味わうことでもんね。切符を買うところから、やったことないことをやって、目的地まで自分で行けたっていうと、それだけで成功体験ですよね。もしそこで失敗したり間違ったりしたら、どうしたらいいかまた考えますもんね。

そうですね。

—まさに「可愛い子には旅をさせる」って先人が言っていますが、まさにそういうことですね。

そうですね。いろんな学びがそこにあって、それで子どもがしっかりする、自分の足で歩いていくことの練習にもつながるのではないのでしょうか。

—なるほど。先生、最近はやきな事件に巻き込まれないかとか、親としては心配になりますよね。その辺は親としてどう対策すればいいんでしょうか。変な人が来たら口聞いちゃダメよとか。どこまで言えばいいんだらうなと思う。あんまりそれを植え付けるとガチガチになって。

他人に対する信頼感をなくしてしまいますからね。今は難しいですよね。

—そうですね。親は心配してもしきれないぐらい心配してしまいますから。先生の場合は、事前にこういう場合はこうしたらいいよとか、こういう時はこの人に聞いたらいいということや心配の代わりに伝えるっていうお話でしたね。

シミュレーションしますよね。基本的には電車やバスの車掌さんとか制服を着ている人に聞くように言いますね。あとはおばちゃんですかね。親切ですから。(笑)

―なるほど。でも、まあちょっと心配しすぎるよりは、子どもを信頼して旅をさせるのはいいんだなと思いました。旅もバスで一駅一駅乗るところからやらせてみることで、子どもの成長になるし、自信も生まれてくるんだなと思いましたね。非日常を体験するという視点の旅、ぜひ参考にしてもうえればと思います。かわいい子には旅といふことで、どうですか？

―生後三ヶ月なんですからね。(笑) まだ早いですかね？

どうですかね。生後四ヶ月ぐらいから子どもを連れて国際線に乗ったんですけど、それはそれでまたちょっと違う話ですけど。あれも技術があるんですよね。飛行機が離陸するときに子どもが泣いちゃったりして困るんですけど、高度が上がって気圧が下がると耳が痛くなりますよね。離陸しているときにミルクを飲ませたり、飴をなめさせたりしてつばを飲み込むと耳管が開いて耳の不快感が取れますよね。そういう旅にまつわる知識があれば、小さい時から旅は可能ですね。

―小さい時からいろんな外の刺激を与えるっていうのもいいんでしょうね。

いいと思います。旅には多くの学びがありますよね。乗り物や旅先でのマナーなんか学ぶ機会にもなりますしね。

―どんだん外に出て行かないといけませんね。今日もありがとうございます。

ありがとうございます。